

「通学合宿」について

概 要

「通学合宿」とは、子どもたち（小学生）が親元を離れ、公共施設などで一定の期間を集団で生活しながら、いつも通り学校へ通う取り組みです。

炊事や買い物、掃除等の生活体験で、地域の大人のサポートを受けながら、子どもたちがみんなて協力し合い共同生活を行います。

1 目 的

子どもたちが変化の激しい社会において自立して生きていくためには、基礎的・基本的な知識・技術やそれらを活用できる力を育成することが必要です。

「通学合宿」は、物質的な豊かさ・便利さの中で、親に依存して暮らす子どもたちに共同生活の機会を与え、衣・食・住といった生活体験を通じて、「お互いの立場や役割を理解し、協力し合う心を育むこと」・「日常生活に必要な生活技能を習得すること」を目的としています。

又、この事業に地域の多くの住民が関わってもらうことを通して、子どもを核とした温もりのある地域コミュニティの再生を図る事も目的としています。

2 通学合宿が求められる背景

〈現 状〉

- 子ども
 - ・生活体験不足（料理、掃除、洗濯・・・）
 - ・自然体験不足（自然観察、野鳥・植物・・・）
 - ・関 り 不 足（異年齢集団との遊びの減少・・・）
- 家 庭
 - ・核 家 族 化（コミュニケーションの学びの場の衰退・・・）
- 地 域
 - ・共存意識の低下（人間関係の希薄化・・・）

3 通学合宿のねらい

(1) 子どもたちにとって

- 規則正しい生活や整理整頓などの生活習慣の定着を図る。
- 働くことや協力することの大切さを理解する。
- 家事などの日常生活を自分自身で行うことにより、自主性・協調性を高める。
- 友達（仲間）の大切さを学び、集団生活への適応力を高める。
- 最後まで自分達でやり遂げる大切さを知る。
- 親のありがたみを実感する。

(2) 活動を支える大人にとって

- 地域住民の交流や活動支援者と保護者との交流、子どもたちとのふれあいの場づくりによって地域コミュニティを構築する。
- 地域ぐるみで子どもを育てる気運を高める。
- 地域住民が子ども一人ひとりについて知る。

(3) 家庭（保護者）にとって

- 親にとって「子離れ」を体験するこの期間を「我が家の家庭教育を見直す機会」とする。
- 我が子の存在の尊さを実感する。

4 期待される効果

- 子ども : 人間関係力、生活力、協調性、忍耐力が身につき、規則正しい生活ができるようになる。
- 保護者 : 子どもの大切さや子供と地域のつながり、家庭教育について考えを深める機会となる。
- 地域 : 住民同士のつながりが生まれ、地域の絆が深まる。協働・共存意識が高まる。